

## 【アゼルバイジャン経済トピック170号】

在アゼルバイジャン日本大使館  
2024年4月4日  
(2024年5月14日一部修正)

### エネルギーハブとしてのアゼルバイジャン (2) アゼルバイジャンからの原油輸出

経済トピック168号ではアゼルバイジャンの原油輸入について述べました。今回はアゼルバイジャンからの原油輸出を取り上げます。

アゼルバイジャンの原油生産量は減少傾向にあるものの、2023年のアゼルバイジャンの原油輸出量は前年比約2万トン増の約2600万トンでした。

表は2021年から2023年までのアゼルバイジャンの原油輸出先上位5カ国の推移です。これらの国々には現在BTCパイプライン経由で輸出されています(ロシア・ウクライナ情勢によりバクー・スプサラインは稼働休止中)。中でもイタリアは2021年から一貫して首位の座にあり、Turan通信の報道によると、2023年のイタリアへの原油輸出量は前年比25%増の約1130万トンであり、アゼルバイジャンが輸出する原油量のおよそ4割強を占めています。

また、原油の種類に関しても興味深い現象が起きています。イタリア環境・エネルギー安全保障省の統計によると、2023年にイタリアへ輸出された原油はアゼリライト(前年比約18%増)の他、アゼリブレンドの輸出量が前年比で40%近く増加しており、ブレンド品の割合が増加していることが窺えます。アゼリブレンドはBTCブレンドとも呼ばれ、アゼルバイジャン、トルクメニスタン、カザフスタン、ロシアの原油にコンデンセートを混ぜたもので、アゼリライトより質は劣るものの価格が安いという利点があります。前号で紹介したように、アゼルバイジャンは近年隣国から原油の輸入も行っており、これらの原油もアゼルバイジャンを介して第三国に輸出されています。

さらに注目すべき変化として、2023年は旧ソ連諸国及び中国への輸出がゼロになっていることが挙げられます。図1は旧ソ連諸国と中国への輸出の推移を表したグラフです。この輸出量ゼロの背景として、ここでもロシア・ウクライナ情勢により、ロシア産原油が制裁に参加していない中国やロシアの友好国に輸出される一方、アゼルバイジャンの原油がエネルギー需要の増大したヨーロッパ向けに回されているためと考えられます。

また、自国の原油生産量が低下する中、アゼルバイジャンは近隣諸国から輸入した原油をブレンド・再輸出を行う一方で、SOCARと日本のJOGMECの協力でバクー近郊のウタルギ地

区における地質調査を行う等自国領内の新しい油田開発にも力を入れています。

このようにエネルギー安全保障面でも、アゼルバイジャンは資源の輸出国にとどまらず、また単なる通過国にもならないという点で外交と同様に巧みなバランス感覚を示しています。

(以上)

表 輸出先上位 5 カ国の推移

(単位:万トン 出典:アゼルバイジャン国家統計局)

	2021		2022		2023	
1 位	イタリア	1258	イタリア	890	イタリア	1111*
2 位	イスラエル	170	イスラエル	229	イスラエル	227
3 位	クロアチア	153	インド	202	インド	203
4 位	スペイン	127	スペイン	139	ドイツ	134
5 位	インド	126	チェコ	119	スペイン	122

\*軽油・重油等を含まない。

図1. イタリアの原油輸入元上位5カ国(2023年)  
(単位:万トン、出典:イタリア環境エネルギー安全保障省)

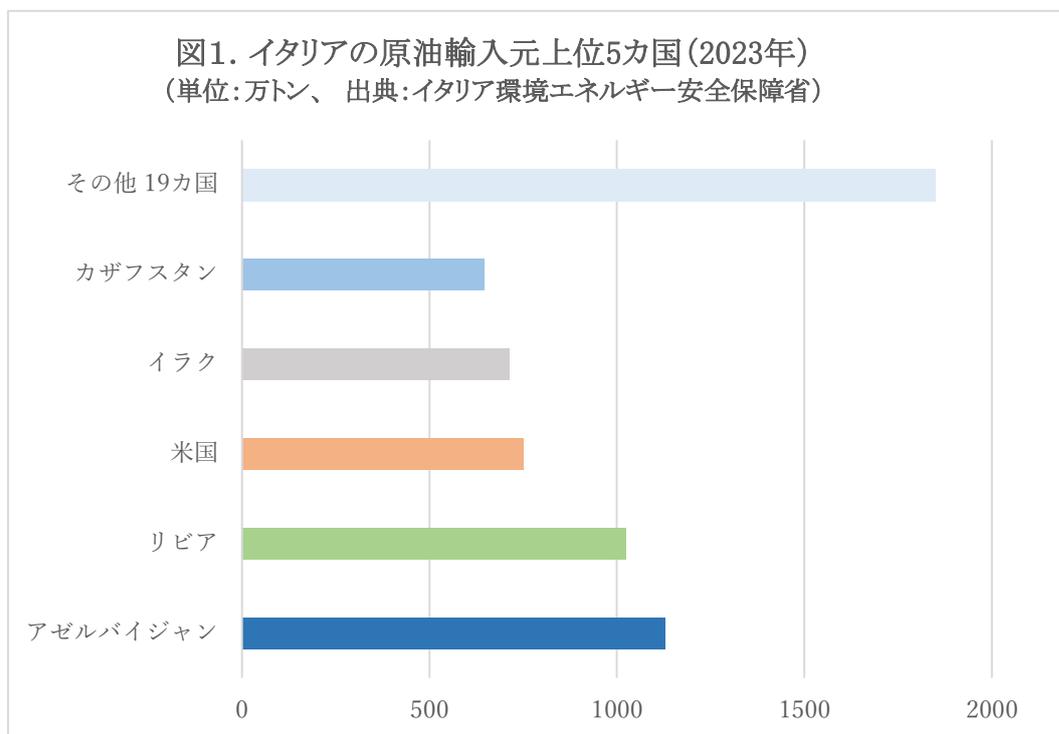


図2. アゼルバイジャンの旧ソ連圏(+中国)への原油輸出  
の推移(2021~2023)

単位:万トン、出典:アゼルバイジャン国家統計局

